

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成29年度採択分）
「家禽産業研究領域のトップジャーナルを目指した国際情報発信力強化」
（課題番号：17HP2010）

学術団体名：日本家禽学会

学術刊行物の名称：The Journal of Poultry Science

事業期間：平成29（2017）年度～令和3（2021）年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

機関誌The Journal of Poultry Science (JPS)は、海外からの投稿率が80%を超えており、すでにアジアにおけるリーディングジャーナルとなっているが、Impact Factor (IF)を向上させ、欧米の有力家禽国際誌と肩を並べる世界のトップジャーナルへと成長させる。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

	応募時*	2019 (3年目)	2021 (5年目)
IF	0.513	0.8	1.4
論文PDFダウンロード数(件/年)	7万	14万	20万
投稿数(編/年)	180	200	250

*応募時のデータ：IF2015、PDFダウンロード数、投稿数は2015年のデータを使用

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

	応募時	2017 (1年目)	2018 (2年目)
IF	0.513	0.771	0.860
論文PDFダウンロード数(件/年)	7万	17万	10万
投稿数(編/年)	180	205	150

○発信力強化：

- ・これまでのPDF論文のフリーアクセスに加え、J-stage上で全文HTML論文の公開を開始した。
- ・英文HPをスマホ・タブレット対応可能なHTML形式に改修し、掲載内容の充実を図った。
- ・PMCへの掲載申請を行い、掲載が決定した。2019年度中に公開の予定であり、公開後PubMed上でのJPS論文検索が可能になる。

○論文の質の向上：

- ・論文の質の向上のため、編集委員会を中心に著名な著者への総説依頼を行った。
- ・国際誌としてジャーナル全体の質を上げるため、掲載全論文の英文校閲を実施した。
- ・審査の充実を図るため、海外審査員に査読依頼を行った（海外審査員の割合約40%）。

○プロモーション活動

- ・アジア太平洋家禽学会(APPC2018、タイ)、国際養鶏養豚総合展(IPPS2018、名古屋)や国際たまごシンポジウム(京都)、第2回熱帯畜産学国際会議(TASP2019、タイ)ならびに第2回国際地鶏学会(ICONC2019、タイ)で宣伝活動を行った。
- ・海外から演者を招聘して国際シンポジウム(2017年9月信州大学、2018年9月東北大学、2019年9月岩手大学)を開催し、その内容を世界家禽学会のニューズレターに掲載した。

・今後の計画

- ・PMC (PubMed) への掲載を継続することにより、IFの向上ならびに欧米からの質の高い論文の投稿数の拡大を目指す。
- ・ジャーナルの信頼度を高めるため、DOAJ (Directory of Open Access Journals) への収録を目指す。
- ・欧米からの著者獲得のため、ヨーロッパ(WPC2020(パリ))での宣伝活動を行う。
- ・宣伝効果の高い家禽関係の国際学会（世界家禽学会(WPC2028)あるいはアジア太平洋家禽学会(APPC2026)）誘致を目指し活動を行う。